

●教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学では、倫理教育を核として教養全般の教育を行います。また、その教養教育を前提として専門教育の充実を図っています。その意味で、本学では、倫理教育が、教育の根幹を成すこととなります。倫理教育に関しては、2年次に、必修科目として「道徳科学」の履修が義務づけられますが、その理解を深め、実践を促すには、道徳や倫理の問題を、社会的、国際的、経済的、経営的な脈絡の中で具体的に考えていく必要があります。

そこで、本学の学生たちは、それぞれの分野において、倫理的な理想や理念をどのように展開するか、正義・公正・効率などの価値をどのように実現するか、多様性をどのように受け止めるかなどを学び、その経験を通じて、卒業認定・学位授与の方針に定める3つの力（物事を公平にみる力、つながる力、実行する力）を育むよう期待されています。

1) 物事を公平にみる力

- ・幅広い教養を身につけ、多様な見方を学ぶ
- ・分析手法を理解すると同時に、その限界も学ぶ
- ・なぜ自由が責任を伴うのかなどを学ぶ
- ・部分を詳細に学ぶとともに、部分を全体の中で位置づける必要性を学ぶ

2) つながる力

- ・社会の恩恵に感謝するとともに、よき伝統を受け継ぐ必要性を学ぶ
- ・地球と自然の持続可能性を実現するための具体的方法を学ぶ
- ・倫理的自覚を促すとともに、社会や未来世代に対する責任の重さを学ぶ
- ・新たな知恵は他者に共感し他者を理解するところから生まれることを学ぶ

3) 実行する力

- ・他者や社会のために、率先して行動することの意義と必要性を学ぶ
- ・理想を社会の中で実現するための具体的方法や技能を身につける
- ・グループ・ワークなどを通じて、リーダーシップを身につける
- ・異なる発想や意見に耳を傾け、当初の理想を昇華させる知恵を学ぶ

かかる方向へと導くため、本学では、卒業認定・学位授与の方針を達成するため、教育課程を以下のとおり編成し、次のとおりの教育内容と教育方法を取り入れた授業を実施するとともに、学修成果の評価を行い、教育の充実を図ることとします。

外国語学部は、各専攻 DP に示す知識・能力を身に付けさせるため、道徳教育、初年次教育、教養教育（キャリア教育）、専門教育、教職教育の観点を踏まえ、専攻専門科目（基礎演習科目、入門・概説科目、上級演習科目、上級専門科目）、卒業研究科目、共通科目、外国語科目、副専攻科目群等により構成する教育課程を編成します。いずれの区分においても一定以上の単位数の修得を義務付けています。

各科目については、ナンバリング及びシラバスにより分かり易く表現します。ナンバリングは、教育課程の体系を示すために、学問の分類や対象とするレベルを表現する番号を付し、教育課程の構造を分かり易く明示したものです。シラバスには「科目名」「単位数」「履修年次」「開講学期」「担当者名」「身に付くように意識している汎用的能力」「題目」「到達目標」「講義内容」「事前・事後学修の内容」「授業内容」「教科書」「参考文献」「成績評価方法・基準」「課題に対するフィードバック」「履修の条件」「他学部生等受け入れ可否」「当該科目に関連する授業科目」「使用言語」を明記します。

外国語学部の道徳教育では、2年次生を対象とした必修科目として「道徳科学 A・B」を配置します。道徳科学は本学の創立者である廣池千九郎が提唱した学問であり、創立者の思想・業績を把握し、麗澤の建学の精神に迫るとともに、道徳科学の概要について理解します。また、大学における道徳教育として、現代の道徳・倫理問題をめぐって理論的な考察を試み、現代社会の中で課題解決のためにどう向き合い、どう行動するのかを明らかにできるようにします。

外国語学部の初年次教育では、1年次必修科目として「基礎ゼミナール A・B」を配置します。当科目では、「スチューデントスキル」、「スタディスキル」、「2年次以降の学びの導入（教養教育とモラル教育）」、「自校史教育（自大学の歴史や沿革）」の4つの領域の定着を全クラス統一の到達目標とします。大学生・社会人として必要な知識・技術、そして責任感を身に付け、本学の建学の精神と歴史を学び、2年次以降のより専門的な学びへつなげていくことができるようにします。

外国語学部の教養教育では、①言語、②人間理解、③比較文化、④情報処理、⑤スポーツ、⑥現代社会、⑦自然と環境、⑧実務、⑨人文・社会に関する英語コンテンツ、⑩グローバル活動等からなる教育課程とし、幅広い教養を身に付け、広い視野に立って物事の公正な判断ができるようにします。特に実務に関する科目にはキャリア教育の科目も配置し、1年次より建学の理念である「知徳一体」を学び、自身の将来を考え行動することを実践することによって、どのような仕事に就いても必要とされる社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を身に付けます。

3年次からは、専攻の専門分野の学修を通して修得した専門的な知識や経験の社会的活用も考え、実践する力を身に付けられるようにします。

また、現代社会に不可欠な情報リテラシーを身につけるため「コンピュータ・リテラシー」を全員が学びます。

外国語学部の専門教育では、体系的に専門分野を学ぶことができる講義系科目を提供するとともに、1年から4年までの全ての学年に少人数の演習系科目を配置することによって、きめ細かな学習サポートも併せて行います。

1年次からは基礎演習科目を履修するとともに、1年次においては入門科目を履修して専門の基礎を学び、2年次では概説科目を履修します。

また、副専攻として、①英語教育、②日本語教育・国語教育、③言語・情報コミュニケーション、④EU地域、⑤英語圏地域、⑥東アジア地域、⑦比較文化・比較文明、⑧国際交流、⑨ビジネス、⑩21世紀の人間学（麗澤スタディーズ）から選択できるようにします。

3年次からは上級演習科目及び上級専門科目を履修するとともに、「卒業研究科目」として3年次では「専門ゼミナール」、4年次では卒業研究に全員が取り組みます。

○英語コミュニケーション専攻

英語学・英語教育・コミュニケーション学を3つの柱として構成されたカリキュラムを学ぶことができますようにします。

1年次及び2年次に週6コマ分の演習を課し徹底的に鍛え、英語を用いて読み、書き、聞き、話すことができるようにします。

3年次からは身に付けた英語を用いて、関連分野の研究を進めることができますようにします。

○英語・リベラルアーツ専攻

英語を通して国際的に広がる情報にアクセスし、文化・社会・歴史などの教養をグローバルな視点で理解し、発信することができますようにします。

1年次及び2年次に週6コマ分の演習を課し徹底的に鍛え、英語を用いて読み、書き、聞き、話すことができるようにします。

3年次からは身に付けた英語を用いて、関連分野の研究を進めることができますようにします。

○ドイツ語・ドイツ文化専攻

留学プログラムを通じてコミュニケーション力と異文化能力、さらにドイツからEUへと広げた多様な価値観を学べるようにします。

1年次及び2年次に週6コマ分のドイツ語演習を課して能力を引き出し、ドイツ語を用いて自分について表現し伝えることができますようにします。

3年次からは身に付けたドイツ語を用いて、さらに自分と世界がどのようにつながっているのか、知識とともに人と関係を構築するスキルを伸ばします。

○中国語専攻

中国語圏に関する知識と、将来のビジネスシーンに対応できるスキルを学ぶことができるようにします。

1年次及び2年次に週5コマ分の演習を課し、発音を徹底指導して中国語修得の基礎固めをします。原則2年次に半年の留学を経て、3年次以降も徹底的にスキルアップをはかり、中国語の読み、書き、聞き、話す力を身につけます。入門・概説科目の学びにより身に付けた中国語圏に関する幅広い知識を土台に、3年次から社会・経済・文化・歴史などの分野の研究ができるようにします。

○日本語・国際コミュニケーション専攻（日本人）

英語と日本語のコミュニケーション・スキルと多文化共生の方法論を学ぶことができるようにします。

1年次及び2年次に週7コマ分の演習を課し、日本語を外国語的に捉え、書く、話す、考える力を身につけるとともに、英語でコミュニケーションできるようにします。また、言語、文化、文学、教育の分野について学べるようにします。

3年次からは、外国語の学びを継続できるようにするとともに、関連分野の研究を進めることができるようにします。

○日本語・国際コミュニケーション専攻（留学生）

日本語のコミュニケーション・スキルと多文化共生の方法論を学ぶことができるようにします。

1年次に週4コマ以上、2年次に週6コマ以上の演習を課し、読み、書き、聞き、話すことができるようにします。また、コミュニケーション、言語、文化、文学、教育の分野について学べるようにします。

3年次以降も、1・2年次と同量程度の関連分野の学びをすることができるようにします。

○国際交流・国際協力専攻

世界の現状を知り、コミュニケーション力を身に付け、問題解決のために行動する態度を学ぶことができるようにします。

1年次及び2年次に週7コマ分の演習を課し、国際交流・国際協力分野の基礎知識を身につけるとともに、英語を用いたコミュニケーションと第2外国語による簡単なコミュニケーションができるようにします。

3年次からは、関連分野の研究を進めることができるようにします。

外国語学部の教職教育では、「教育職員免許法」に基づいた課程を設置し、中学校教諭と高等学校教諭の免許取得が可能です。教科に関する科目には、「英語」「ドイツ語」「中国語」「国語」の免許状が取得可能な科目を配置します。また、「司書教諭」の免許状も取得可能です。

経済学部は、各専攻 DP に示す知識・能力を身に付けさせるため、道徳教育、初年次教育、教養教育、専門教育、キャリア教育、教職教育の観点を踏まえ、専攻専門科目、共通科目、キャリア科目等により構成する教育課程を編成します。いずれの区分においても一定以上の単位数の修得を義務付けています。

各科目については、ナンバリング及びシラバスにより分かり易く表現します。ナンバリングは、教育課程の体系を示すために、学問の分類や対象とするレベルを表現する番号を付し、教育課程の構造を分かり易く明示したものです。シラバスには「科目名」「単位数」「履修年次」「開講学期」「担当者名」「身に付くように意識している汎用的能力」「題目」「到達目標」「講義内容」「事前・事後学修の内容」「授業内容」「教科書」「参考文献」「成績評価方法・基準」「課題に対するフィードバック」「履修の条件」「他学部生等受け入れ可否」「当該科目に関連する授業科目」「使用言語」を明記します。

経済学部の道徳教育では、1年次生を対象とした必修科目の「現代社会と道徳科学 A・B」と、2年次生を対象とした必修科目の「道徳科学 A・B」を配置します。道徳科学は本学の創立者である廣池千九郎が提唱した学問であり、創立者の思想・業績を把握し、麗澤の建学の精神に迫るとともに、道徳科学の概要について理解します。

また、大学における道徳教育として、現代の道徳・倫理問題をめぐって理論的な考察を試み、現代社会の中で課題解決のためにどう向き合い、どう行動するのかを明らかにできるようにします。

経済学部の入学前・初年次教育では、大学への適応とスタディ・スキルの習得を目的に、コア科目として「基礎ゼミナール A・B」を開講し、学生自ら学修計画の立案、主体的な学びの実践ができるようにします。また、リメディアル教育として、入学前の時期に A0、推薦入試合格者を対象にビジネスゲームとキャリア教育の集中講義及び基礎学力向上のための取り組み（eラーニング）を受けられるようにするとともに、入学時のプレースメントテストにおいて、基礎学力が不足していると判断された学生を対象に、英語、日本語（外国人留学生対象）及び数学の学び直しを目的とした講座を受けられるようにします。

経済学部の教養教育では、①外国語・コミュニケーション、②情報処理、③スポーツと健康、④自然と環境、⑤人文と社会、⑥グローバル教育等からなる教育課程とし、幅広い教養を身に付け、広い視野に立って物事の公正な判断ができるようにします。

また、現代社会に不可欠な情報リテラシーを身につけるための「情報リテラシー」と「情報科学」及び、国際性の基礎となる「英語コミュニケーションスキル」を全員が学びます。

経済学部の専門教育では、体系的に専門分野を学ぶことができる講義系科目を提供するとともに、1年から4年までの全ての学年に少人数の演習系科目を配置します。

1年次においては、全員が各専門分野の原論・概論を履修し、専攻の基礎を学びます。

2年次においては、専攻のコアとなる基礎演習を履修します。

3・4年次においては、「ゼミナールⅠ～Ⅳ」や上級専門科目を履修し、専門知識の理解を深めます。

○経済専攻

本専攻では、経済社会で起こる問題の本質をつかむことができる力を身に付けます。そこで1年次においては、経済学の基礎を学ぶために「経済原論A・B」を全員が履修します。さらに、経済学の基礎の理解をより深めることとアカデミックスキルの習得を目的とした演習科目である「基礎ゼミナールA・B」も全員が履修します。

2年次においては、「経済学基礎演習A・B」を全員が履修します。「経済学基礎演習A・B」では、現実の経済社会の動向や構造を統計データなどに基づいて把握することによって、現実の経済社会の動向や構造と経済理論との関係性を理解することを第一の目的とします。さらに、「経済学基礎演習A・B」は、講義内の全ての課題をグループワーク形式で取り組む形式で講義がデザインされており、他者と協働する力を身につけられることも目的としています。

3・4年次においては、経済理論・経済政策・経済倫理・計量などに関する上級専門科目や「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修し、専門知識の理解を深めます。

経済専攻では、「中国語コミュニケーションコース」と「公務員コース」を特別コースとして設置します。「中国語コミュニケーションコース」では、卒業後に中国を含むアジア圏で国際的に活躍できる力を身に付けます。そのため、「中国語コミュニケーションコース」では、経済理論やアジア圏を主体とする経済動向などを中国語で理解できる能力を卒業までに身に付けます。また、「中国語コミュニケーションコース」に所属する学生は、提携する大学への留学が推奨されます。「公務員コース」では、学内の特別講座の履修と提携する専門学校との連携教育プログラムによって公務員として必要な資質を身に付けます。

○グローバル人材育成専攻

本専攻では、多国籍の人々と国内外で経済・経営・国際問題の解決ができ、グローバル社会を生き抜くことができる力を身に付けます。主に、①語学力、②物事を観る力、及び③違いを尊重し融合する力の3つの力を身に付けます。そこで、1年次においては、英語力の水準により2つのクラス、専門科目（経済学・経営学）を英語で学ぶSクラス（コース）と能力別英語クラス+日本語で専門科目を学ぶABCクラスに分かれます。まず1年生全員が「グローバル人材概論」とその演習科目である「基礎ゼミナール」を履修します。それと並行して、経済学と経営学の基礎を学ぶために「経済原論A・B<S:Principles of Economics A・B>」と「経営学概論A・B<S:Principles of Management A・B>」を全員が履修します。さらにReading、Listening、Writingの英語科目を全員が履修し、TOEICの点数が100点以上アップします。

次に、2年次から、英語力の水準と希望する専門分野により、英語で専門科目を学ぶSコースとグローバル経済・グローバル経営・国際社会の3つのコースの計4つのコースに分かれます。2年次においては、「グローバル基礎演習A・B」を全員が履修します。「グローバル基礎演習A・B」では、グローバル社会を多面的に理解することを第一の目的とし、諸課題をグループワーク形式で取り組み、発表する形式をとっているため、協働する力とプレゼンする力を身につけられます。さらに、海外で行われる「グローバル経済経営フィールド演習（初級）」を1・2年生で原則全員が履修するので、英語力、専門の力や行動力等のグローバル力を身につけることができます。2年生の2学期から、英語力・専門力等のグローバル力を身につけることを目的に海外協定校での短期長期の語学・専門留学を配置しています。

3・4年次においては、各コースの上級専門科目や「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修し、グローバル人材となる専門知識と能力を身に付けます。本専攻の特別コースである「スーパーグローバルコース」は、上記で示したように1年次から専門科目を英語で学ぶと共に、海外留学などを通じて、グローバルな視点でグローバルに活躍できる知識と能力を身に付けます。

○経営専攻

本専攻では、「よき経営人」として、他者と上手く連携し、組織をマネジメントできる力を身に付けます。「よき経営人」とは、「良い」と「善い」の両方を兼ね備えて企業組織で活躍できる人材のことです。具体的には①経営に関する知識、②社会人基礎力、③人間力、を持つ人材です。

まず、経営に関する知識についてですが、1年次の「基礎ゼミA」にて行われるビジネスゲームで経営の全体像およびヒト・モノ・カネの動きについて理解を深めます。そして1年次の「経営学概論」、2年次の「マーケティング総論A・B」「経営組織論A・B」などの授業によって経営学の基本的知識を得ることができます。

3年次からは「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」をコアとして、自らのゼミナールと関連の深い領域の専門的内容について学んでいきます。

また、近年重要性を増している情報を分析する能力は、「企業経営分析」、「ビジネスリサーチ」等で重点的に身につけることができます。さらに、発展的チャレンジを望む学生は、「イノベーションPT」で理論をベースとして現実の課題に取り組む能力を獲得できます。

次に、社会人基礎力に関してですが、1年次の「基礎ゼミB・C」で行われるグループワークを行い、他者と協働する力を身につけられるようにします。そして、2年次の「経営学基礎演習A・B」のレポート課題やプレゼンテーション課題に取り組むことで、文章を読む力、論理的に考える力、自らの考えをわかりやすく他者に伝える力が鍛えられます。3・4年次の卒業論文も作成する「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」において、社会で活躍するために必要な能力を自分に合わせる形で身に付けられます。

最後に人間力に関してですが、まず「現代社会と道徳科学A・B」、「道徳科学A・B」で自らの倫理的価値観について深く考えます。また、様々な科目の課題やグループワークに主体的に取り組むことで、自らを律する力やコミュニケーション能力などを習得することができます。

○会計ファイナンス専攻

本専攻では、会計ファイナンスの本質をつかむことができる力を身に付けます。1年次においては、全員が「会計ファイナンス概論 A・B」を履修し、会計ファイナンス分野の基礎知識を学びます。

2年次においては、学んだ基礎知識に基づいて演習形式で学ぶ「会計ファイナンス基礎演習 A・B」を履修します。

3・4年次においては、「ゼミナール I・II・III・IV」や上級専門科目を履修し、金融機関や金融市場、証券市場や投資、税務や会計、ITの活用などについて論理的、実践的に学び、専門知識の理解を深めます。

また、特別コース（税理士コース）では、専門学校との連携により、さらに高い専門知識を身に付けます。

○スポーツビジネス専攻

本専攻では、スポーツビジネスを企画・運営できる力を身に付けます。1年次においては、「経営学概論」を履修し、経営の全体像と基礎的理論を理解します。また、「健康科学」、「スポーツ・健康と社会」を履修し、スポーツビジネスで必要となるスポーツ・健康に関する基礎的知識を身につけます。

2年次においては、部活などの身近な題材なども用いて演習形式で学ぶ「スポーツマネジメント基礎演習 A・B」を履修します。また、「マーケティング総論 A・B」、「経営組織 A・B」といった科目で経営学のコアとなる理論を学ぶとともに、「スポーツの理論と実習」、「スポーツコンディショニング実習」等のスポーツビジネスの現場で必要とされる知識・技能を身につけます。

3・4年次においては、「ゼミナール I・II・III・IV」や「スポーツ経営」、「スポーツマーケティング」、「コーチング」などの上級専門科目を履修し、スポーツビジネスを企画・運営できる知識と能力を身につけます。

また、授業を通じて様々な資格取得を支援しています。具体的には、本専攻の授業の単位を修得することで、資格を獲得できたり、資格取得に必要な講習を免除されたりする仕組みを構築しています。この仕組みの対象となる資格は、「スポーツリーダー」、「アシスタントマネジャー」、「認知症予防ファシリテーター」、「レクリエーション・インストラクター」です。

経済学部の教職教育では、「教育職員免許法」に基づいた課程を設置し、中学校教諭と高等学校教諭の免許取得が可能です。教科に関する科目には、「公民」「社会」の免許状が取得可能な科目を配置します。また、「司書教諭」の免許状も取得可能です。

経済学部のキャリア教育では、1年次より建学の理念である「知徳一体」を学び、自身の将来を考え行動することを実践することによって、どのような仕事に就いても必要とされる社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を身に付けます。3年次からは、専攻の専門分野の学修を通して修得した専門的な知識や経験の社会的活用も考え、実践する力を身に付けられるようにします。

本学は教育方法として、演習や講義の形式にかかわらず、プレゼンテーション、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク、フィールド・ワーク等の「アクティブ・ラーニング」の手法を効果的に取り入れます。PBLを通じて、学生自らが問題・課題を発見し、立ち上げられたプロジェクトを実践する力を身に付けます。

また、学習の実質化を図るために1学期あたりに履修登録できる単位の上限数を定めたCAP制度を運用します。

学修成果の評価は、GPA制度、「汎用的能力」調査、学生の学習時間調査等を運用することにより行います。成績評価はGPA制度の運用及びFDの取り組みにより厳格さを担保します。成績は6段階（S・A・B・C・D・E）に区分し、履修者30名以上のクラスはSからCの合格者の割合を決めた相対評価を適用します。